

3 【授業】 特別フィールドワーク「ため池アクション」の実施

本年度の新たな試みとして、授業(特別フィールドワーク「ため池アクション」)を企画・実施しました。農業・農村が抱える課題に関して、学生3人程のチームを組み、地域住民、専門家、ファシリテーターと共に、6ヶ月間で1つのテーマに取り組みました。参加学生数は11名、2023年度入学、2022年度入学の学生の参加がみられました。

実施時期は、2023.5~10、実践フィールドは加古川市、稲美町。

ため池アクションとは？

ため池・農業・農村の課題に、
地域と協働で取り組む
学生向けプログラム

地域課題の多くは、一朝一夕に解決できるものではなく、厳しい現実もあります。そういったなかでの、「新しいこと」や「楽しいこと」を生み出していく、そういったムードを作っていくことを大事にして実施してきました。

大切にしていること

アクションが起こる
ムードをつくる



取り組んだテーマは大きく3つ

ACTION ため池×六次産業化×アグリツーリズム

1 国産コットンの生産から 地域ブランド創造を考える

江戸時代から盛んだった綿花栽培。2011年から100% 地域産ブランド作りに取り組むかこっこん(株)と、綿花の生産を担う志方東営農組合と共に、綿花の栽培から販売まで考えていきます。



ACTION ため池×写真×観光

2 ため池と地域めぐりの フォトスポットデザイン

現在、地域が一体となって散策ルートを開発中。そこで、その開発中のルートを活用して、若い人たちがため池に親しむにはどうしたらよいかを考えていきます！



ACTION ため池×管理作業×調査研究

3 若者が関わりやすい、 地域農業をデザインしよう！

地域農業を支える活動(農作業や、ため池の管理作業など)に関わっているのは、70代の男性がメインとなっています。これからも農業を続けるために、地域内外の若者が関わりやすい仕組みを提案・実践していきます。



プログラムの行程

① 開校式

本プログラムに関わるメンバーの顔合わせの場。学生だけでなく、受け入れ側の地域住民や専門家、ファシリテーターや行政職員など、さまざまな立場の方と、目的を共有するとともに、メンバー間の関係性を構築しました。



② フィールドワーク

3つのテーマ、それぞれがそれぞれの地域、課題に向き合って、フィールドワークを行いました。

「国産コットンの生産と地域ブランド創造」チームは、農作業の体験や地域交流イベントのサポート、コットンの種から採取される油を活用したマヨネーズ作成およびクラウドファンディング、「フォトスポットデザイン」チームは、ため池の改修に伴う地域会議への参加やマップ作りおよびマップ活用に向けたイベントの企画・実施、「若者が関わりやすい地域農業のデザイン」チームは、農作業だけでなく、水利施設などの地域資源の管理作業の体験、その軽減や人材確保に関する提案などをおこないました。



③ 成果発表会

活動を通して得られたアウトプットや成果を関係者の前で発表しました。

発表だけでなく、学生や学生を受け入れた地域住民、またそれをサポートしたファシリテーターや行政関係者、それぞれの視点からみた感想や気づきを共有しました。

本プロジェクトを通して、継続的に当該地域に関わりたいという学生や受け入れたいという地域住民もみられ、EHCとして継続的にプロジェクトをサポートしています。

